

絵 す ご ろ く 展

大好き

かわいいがいっぱい!
あの頃へタイムスリップ!

はじめに

絵すごろくは、江戸時代から昭和期にかけて、子どもに親しまれた玩具であり、カルタや凧揚げとともに正月の風物詩でした。しかし多くの場合、大量に作られた絵すごろくも他の玩具と同様に、子どもが成長し、遊びの対象が移ると役割を終え、捨てられてしまいます。したがって、1000点を超える絵すごろくを有する本コレクションはとても貴重なものであるといえます。

本コレクションは日本近代史研究に大きな足跡を残された小西四郎氏により形成されたものです。絵すごろくは世相を伝えるビジュアルな史料であることに、小西氏はすでに50年前から気がついていたのです。

本展覧会では、古書店でもみかけることが少なくなった貴重な絵すごろくを紹介します。意匠がこらされた絵すごろくには、同世代が共有する夢や希望が鮮やかに描かれています。子どもたちの心をおどらせた絵すごろくの世界を是非お楽しみください。

2006年7月
学習院大学史料館



江戸の浮世を映す 絵すごろく

すごろくには、奈良時代にはすでに伝来していたとされる盤双六と、「ふりだし」から始まり「上がり」へ向かう紙製の絵すごろくの2種類があります。日本の絵すごろくの起源ははっきりしませんが、江戸時代には庶民の娯楽として普及します。旅の過程を題材にした「道中双六」、芝居・役者を素材とした「役者双六」、江戸や京都のみやげとして親しまれた「名所双六」などが人気を博します。これらは著名な絵師によって描かれた多色刷りの木版画である錦絵であり、大人の観賞にも十分耐えうるものでした。

小西四郎 絵すごろくコレクション

本展覧会で展示されている絵すごろくは、小西四郎氏（1912～96）が収集した大正期を中心とする絵すごろくコレクション1030点の一部です。小西氏は明治維新史を専門とし、文部省維新史料編纂事務局で『維新史』などの編纂に携わった東京大学史料編さん所教授でした。

小西氏は、写真や図版を多用しわかりやすく日本史を概説するというコンセプトの『画報近代百年史』（1951～52年刊）を編纂するにあたり、明治・大正の世相を伝える史料として

絵すごろくに着目しました。錦絵などと比べ、雑誌附録として大量に出版され入手しやすかったというのも、このような膨大なコレクションが形成された理由のひとつでしょう。



膨らむ夢を 現実に

大正期の絵すごろくには、乗り物やデパートが多く描かれます。飛行機や軍艦などは最先端の科学技術の粋が注がれた乗り物で、それに乗ること自体が当時の少年たちの憧れであり、空想の世界への旅立ちでした。また、明治後期の誕生以来、展覧会や歌劇が催され、デパートは常に新しい情報の発信地として、人びとの注目的となります。

このようなモダンとロマンが交差する時代を反映した絵すごろくには、童話作家の巖谷小波がストーリーを考案したもの、川端龍子など日本画壇で活躍する画家が情緒豊かな絵を描いたものなど、充実したものも少なくありませんでした。

近代の「ふりだし」 —明治

明治維新により旧来の身分秩序が解体されると、誰もが社会的地位を上昇させる機会を得ることができます。しかし一方、欧米列強と肩を並べるべく社会制度が急速に整備されることで、社会的地位の上昇には一定の手順が新たに必要となりました。例えば、出世の条件として学歴が必須のものとなったことが挙げられます。

このような近代国家への歩みは、人びとの生活にも大きな影響をあたえます。街には、ガス灯の明かりがともり、蒸気機関車の汽笛が響くなど、明治時代はまさに近代の「ふりだし」でした。

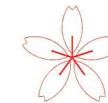
人気者・ヒーロー見参す!

敗戦からの復興のさなか、昭和28年（1953）の本放送開始以降、人びとの目はテレビに釘付けとなりました。昭和30年代には高度経済成長によりテレビは爆発的に普及し、時代の流行を左右する番組やCMが次々に生み出されています。なかでもアニメや子ども向け特撮番組では多くの人気キャラクターが登場し、絵すごろくの主役としても活躍しています。全国共通の人気キャラクターの中には日本を飛び出し、世界中で親しまれるものも数多く生まれました。

近年では、さいころがルーレットにかわり、紙はテレビゲームの画面になるなど大きく様変わりしましたが、それでも絵すごろくは根強い人気を博しています。

躍進と“勝利”の陰で

昭和前期の日本は、ロサンゼルスやベルリンでのオリンピック（1932・36年）の日本選手団の活躍にみられるように、国際的な舞台での活動も活発になります。この時期の絵すごろくには、そうした国内外の動きが描かれる一方で、恐慌による不景気、さらに戦争への突入といった世相を反映し、軍事色の強いものが多くみられます。世界への躍進や“大勝利”がイメージされる絵すごろくが多く生み出されるその陰では、軍靴の音が着実に高まっていたのでした。



GAKUSHUIN UNIVERSITY MUSEUM OF HISTORY

本展の開催にあたり、次の方々にご協力をいただきました。
深く感謝の意を表します。（敬称略）

小西 晃
明治製菓株式会社

第26回特別展 大好き 絵すごろく展
会期 2006年7月3日（月）～8月5日（土）
編集・発行 学習院大学史料館
担当 野尻泰弘
発行年月 2006年7月

[http://www.
gakushuin.ac.jp/univ/ua](http://www.gakushuin.ac.jp/univ/ua)